

審査結果報告書

2023 年 / 月 / 日

主 査 氏 名

藤岡 正人



副 査 氏 名

左野 信行



副 査 氏 名

阪 正 信行



副 査 氏 名

福田 倫也



1. 申請者氏名 : 古木 省吾

2. 論文テーマ : 本邦における補聴器装用者の実耳挿入利得と DSLv5 法及び NAL-NL2 法との比較

3. 論文審査結果 :

難聴者の QOL の向上・維持に補聴器は欠かすことの出来ないツールである。難聴の程度は症例毎に異なるため、日常生活に役立つ補聴器装用の実現には適切な補聴器フィッティング（周波数毎の増幅特性の個別最適化）が必須だが、一方で本法で汎用されている補聴器はそのルーツを海外に持つため、補聴器装用に際しての増幅特性アルゴリズムについても、英語を中心とした他国語の環境で開発された手法が転用されているのが現状である。

本研究では、日本語に適正な補聴器フィッティング法の確立に向けて、世界的に汎用されている二つの方法(DSLv5 法, NAL-NL2 法)の日本語に対しての妥当性が検討された。大学病院耳鼻咽喉科補聴器外来で調整した補聴器装用患者の中で、長期間補聴器を安定して装用している症例を日本語で適正な補聴器調整がなされているものと見做して、その補聴器の実耳挿入利得 (REIG) を測定し、DSLv5, NAL-NL2 が提示するターゲット値と比較した。検討の結果、中音域に相当する 1000Hz, 2000Hz では、閾値、圧縮率ともに REIG は DSLv5, NAL-NL2 と近似していたが、低音部及び高音部の利得はいずれも REIG のほうが小さかった。圧縮率は DSLv5 により近似していた。日本語環境における補聴器調整に関する重要な基礎データが提示されるとともに、低音および高音部の検討が課題である可能性が示唆された。

学位審査においては、申請者により主論文に関する明快な発表が行われ、その後、審査員より多くの質疑がなされたが、申請者は適切に回答していた。論文は臨床的意義が高く、新規性と進歩性、独自性も認められる内容として、審査員の協議により、全員一致で学位論文として相応しいものと判断した。